

これはアストラゼネカ英国本社が2006年10月26日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語標記のままとします。

AstraZeneca PLC

2006年第3四半期・9ヶ月累計業績

「第3四半期、売上高11%増、1株当たり利益34%増で堅調推移」

ファイナンシャルハイライト

グループ	第3四半期 2006年	第3四半期 2005年	前年 同期比	恒常 為替	9ヶ月累計 2006年	9ヶ月累計 2005年	前年 同期比	恒常 為替
	100万ドル	100万ドル	%	%	100万ドル	100万ドル	%	%
売上高	6,516	5,789	+13	+11	19,321	17,664	+9	+11
営業利益	2,106	1,695	+24	+24	6,213	4,866	+28	+29
税引前利益	2,187	1,743	+25	+25	6,440	4,978	+29	+30
1株当たり利益： 米国Toprol-XL™ を控除後調整*	1.01ドル	0.76ドル	+33	+34	2.93ドル	2.14ドル	+37	+38
売上	6,143	5,455	+13	+11	18,216	16,719	+9	+11
1株当たり利益	0.87ドル	0.65ドル	+34	+34	2.53ドル	1.84ドル	+38	+39

*: Toprol-XL™ の米国の売上ならびに利益を本年度、昨年度とも控除

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)

- 第3四半期の売上高は11%増の65億1,600万ドル、営業利益は24%増の21億600万ドルでした。
- 第3四半期の売上増は5つの主力成長製品の好調な業績（5製品の売上合計は21%増の33億2,200万ドル）に牽引されました。
- 9ヶ月累計売上高は11%増の193億2,100万ドルでした。営業利益は29%増でした（本年第2四半期に計上した1億900万ドルの売却益を含む）。9ヶ月累計営業利益率は売上高の32.2%でした。
- 9ヶ月累計フリーキャッシュフローは47億9,300万ドル、株の買い戻し額は9ヶ月累計で総額20億2,400万ドルでした。
- 米国スタチン市場の新規処方件数に占める Crestor™ のシェアは10月13日終了週現在9.6%でした。
- 10月19日、欧州におけるセロクエル™ 徐放製剤の承認申請を公表しました。10月20日、米国において双極性うつこの治療薬として承認されました。セロクエル™ は、双極性障害に伴う鬱ならびに躁両方の症状の治療薬として承認された最初で唯一の薬剤となりました。
- 開発中である NXY-059 は急性虚血性脳卒中の第III相臨床試験（SAINT II 試験）において有効性に関する目標値に達しませんでした。当社は本剤の開発を更に進める計画はありません。
- 10月9日、欧州における Symbicort® 維持・リリーバー療法（Symbicort SMART®）の相互認証手続きを成功裡に完了したことを発表しました。この新しい喘息治療法は今後数ヶ月の間に各国で発売される予定です。
- 当社は通年の1株当たり利益を3.85ドルから3.95ドルの間と予想しています。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「第3四半期に関しても引き続き好調な業績を達成することができたため、通年の財務目標を上方修正しました。本日発表したNXY-059の臨床試験の結果は残念なものですが、私は今後とも好調な業績ならびに財務実績を維持するとともにパイプラインの強化に取り組みます。」

2006年10月26日 ロンドン発

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）

第3四半期

第3四半期の売上高は恒常為替レートベースで11%、報告ベースで13%（為替益2%を含む）増加しました。米国内の売上高は18%増加しました。米国以外の売上高は、欧州での軟調（1%増）により全体で5%増にとどまりましたが、他の市場では12%増加しました。

研究開発費は、Cambridge Antibody Technologyの研究開発費の統合を含み、昨年の第3四半期（2005年で金額が最低であった四半期）に比べて、恒常為替レートベースで19%増加しました。販売・一般管理費は恒常為替レートベースで4%増加しました。第3四半期の営業利益は24%増の21億600万ドル、営業利益率は32.3%でした。1株当たり利益は2005年の0.76ドルから1.01ドルに34%上昇しました。

主力5製品（NexiumTM、セロクエルTM、クレストールTM、アリミデックスTMおよびSymbicortTM）の当期総売上高は21%増の33億2,200万ドルでした。

NexiumTMの第3四半期売上高は13%増の12億8,000万ドルでした。米国市場では引き続き堅調な数量ベースの伸びを示しましたが、価格の引き下げにより一部相殺され、売上高の増加率は15%でした。

セロクエルTMは19%増の8億4,800万ドルでした。10月19日、当社は、欧州におけるセロクエルTM1日1回徐放製剤の承認申請を公表しました。また、セロクエルTMは10月20日付けで双極性障害に伴う鬱の症状の治療薬として米国医薬品局（FDA）に承認されました。

クレストールTMの第3四半期売上高は62%増の5億3,600万ドルでした。米国スタチン市場の新規処方件数に占めるクレストールTMのシェアは10月13日終了週現在、9.6%でした。他の市場でも売上高は66%増加しました。

アリミデックスTMの第3四半期売上高は24%増の3億8,200万ドルでした。8月にアリミデックスTMは、米国市場の乳癌治療用ホルモン療法薬の総処方数において、タモキシフェンを抑え初めてトップに立ちました。

SymbicortTMの当期売上高は11%増の2億7,600万ドルに達しました。10月9日、欧州におけるSymbicortTM維持・リリーバー療法（Symbicort SMART[®]）の相互認証手続きを成功裡に完了したことを発表しました。この新しい治療法により、患者は維持療法および喘息発作症状の緩解の管理が単一の吸入器の使用で可能になります。

9カ月累計

9カ月間の売上高は恒常為替レートベースで11%、報告ベースで9%増加（為替損2%を含む）しました。米国市場の売上は15%増、米国以外の市場は7%増でした。主力成長5製品の9カ月間の総売上高は、NexiumTM（12%増）、セロクエルTM（26%増）、クレストールTM（53%増）、アリミデックスTM（30%増）およびSymbicortTM（19%増）の堅調な売上を反映して、96億1,600万ドルに達しました（23%増）。

恒常為替レートベースで販売・一般管理費の増加率（6%増）は売上高の成長率よりも5ポイント低く、この結果、9カ月間に研究開発費が14%増加したにもかかわらず、営業利益率は改善しました（売上高の32.2%）。営業利益は29%増加して、62億1,300万ドルを計上しました（本年第2四半期の事業売却益1億900万ドルを含む）。1株当たり利益は前年度2.14ドルから2.93ドルに38%増加しました。

今後の見通し

本年1年間の当社の1株当たり利益は3.85～3.95ドルと予想されます。

この目標額には年末までの2カ月間に米国内で得られるToprol-XLTMの関連利益約10セントが含まれています。これはジェネリック企業が規制当局の最終的な承認を待たずに、「リスクのある状態」で発売に踏み切ったと仮定した数字です。この10セントにはいかなる一時資産または必要な在庫調整も含まれません。

注意：当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、上訴の決着前にToprol-XLTM発競合製品が米国市場に導入される可能性もあり、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、クレストールTM、NexiumTM、セロクエルTM、SymbicortTM、アリミデックスTM）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確実要素と考えられます。これらやその他のリスクや不確実要素については、2005年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

消化器

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2006	2005		2006	2005	
Nexium™	1,280	1,127	+13	3,752	3,386	+12
Losec™ / Prilosec™ (オメプラール)	324	376	-15	1,024	1,241	-15
合計	1,625	1,518	+6	4,830	4,678	+4

- 第3四半期のNexium™の米国内売上高は2005年第3四半期に比べて15%増加し、販売価格の引き下げにより、一部相殺されたものの、引き続き堅調な伸びを示しました。Nexium™の処方数は当期に19%増加しましたが、9月はマネージドケアプラン契約の損失の影響を受け、15%増にとどまりました。第3四半期にPPI市場は13%の成長を記録。ジェネリックのオメプラゾールの処方数は68%増加しました。他の商品は全体で5%の減少を示しました。
- 9カ月間のNexium™の米国市場売上高は11%増加しました。
- 米国以外の市場におけるNexium™の売上高は、ドイツでのPPI基準価格の大幅な引き下げの影響を受け、第3四半期6%、9カ月累計12%の増加にとどまりました。ドイツを除く地域での売上高は当期11%増、9カ月累計18%増を記録しました。
- 米国でのPrilosec™の9カ月累計売上高は18%減少し、他市場でのLosec™の売上高は15%減少しました。

循環器

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2006	2005		2006	2005	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	473	437	+7	1,407	1,280	+10
Crestor™	536	325	+62	1,403	915	+53
Atacand™	279	238	+13	809	727	+12
Plendil™ (スプレンジール)	68	82	-18	210	287	-26
ゼストリル™	76	83	-10	229	248	-6
合計	1,579	1,327	+17	4,509	3,954	+15

- Toprol-XL™の米国内売上高は第3四半期に12%増加し、9カ月間で17%増加しました。総処方数は9カ月間で12%増加したのに対して、米国β遮断薬市場では8%の増加でした。現在、ジェネリック企業によるFDAへの簡易承認申請は、Eon Labs Manufacturing社が提出した申請以外にありません。
- 米国以外の市場におけるセロケン™の売上高は当期6%減、9カ月累計8%減となりました。
- 米国での Crestor™の当期売上高は59%増加し、3億100万ドルに達しました。米国スタチン市場の新規処方件数に占める Crestor™のシェアは10月13日終了週で9.6%であり、新規および変更の患者での市場占有率は先週14.0%を記録しました。9カ月間の米国売上高は50%の増加となりました。
- 米国以外での Crestor™の第3四半期売上高は、引き続き欧州（57%増）市場の堅調な伸びに支えられたほか、日本での市販後調査プログラムの中間報告が成功裡に終了したことで、製品が広く流通し、初期の在庫販売量が多少増加したことを受け、66%増の2億3,500万ドルを計上しました。 Crestor™のスタチン市場における販売量ベースのシェアは現在、カナダ15.9%、オランダ11.2%、イタリア18.0%、フランス10.9%です。
- Crestor™の米国以外での9カ月累計売上高は57%増加しました。
- Atacand™の米国での売上高は、処方数の4%増加、価格変更および多少の在庫変動の影響により第3四半期に23%増加しました。9カ月間の売上高は7%増加しました。

- 米国以外の市場におけるAtacand™の売上高は第3四半期10%増であり、本年9カ月間で15%増加しました。
- スプレンジール™の売上高は、米国市場への競合後発品の参入の影響を受けて全体で当期18%減少し、9カ月間で26%減少しました。米国市場では9カ月間で74%減少しました。

呼吸器

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2006	2005		2006	2005	
パルミコート™	263	234	+11	892	824	+9
Symbicort™	276	240	+11	861	742	+19
Rhinocort™	83	91	-9	270	295	-8
Oxis™	21	23	-13	65	69	-5
アコレート™	20	14	+43	59	55	+7
合計	696	636	+7	2,252	2,100	+9

- Symbicort™の売上高は第3四半期に11%増加して、2億7,600万ドルを計上。9カ月累計売上高は19%増加しました。
- 10月9日、欧州におけるSymbicort®維持・リリーバー療法（Symbicort SMART®）の相互認可手続きを成功裡に完了したことを発表しました。Symbicort SMART™は吸入ステロイドと持続性気管支拡張薬の併用療法を必要とする成人への使用が承認されています。この新しい治療法により、患者は維持用量のSymbicort™を使用することで、喘息をコントロールすることができ、さらに症状が発生した場合は、症状緩和のために「必要に応じて」追加吸入することができます。
- 世界全体でのパルミコート™の売上高は引き続き米国でのパルミコート™吸入液の成長に牽引され、増加率は第3四半期28%、9カ月累計21%を記録しました。9カ月間のパルミコート™吸入液処方数の増加率は7%程度と推定され、売上高の伸び率との差は、在庫変動、マネージドケアの払戻金の調整および価格変更によります。
- 主にRhinocort™Aquaの米国市場での売上減（12%減）が災いし、Rhinocort™の9カ月累計売上高は8%減少しました。米国でのRhinocort™Aquaの処方数は9カ月間に15%減少しました。

オンコロジー

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2006	2005		2006	2005	
アリミデックス™	382	303	+24	1,096	856	+30
カソデックス™	299	276	+7	879	840	+8
ゾラデックス™	255	258	-2	736	752	+1
イレッサ™	62	61	+5	174	201	-10
Faslodex™	47	37	+24	138	101	+38
ノルパデックス™	21	26	-15	66	86	-18
合計	1,076	963	+11	3,105	2,844	+12

- 米国内のアリミデックス™の売上高は第3四半期28%増、9カ月累計でも28%増となりました。米国での現在までの総処方数は23%増加し、米国での乳癌治療用ホルモン療法薬の総処方数に占める市場シェア率は9月に37.2%に達しました。8月にアリミデックス™は処方数でタモキシフェンを抑え、初のマーケットリーダーとなりました。
- 米国以外でのアリミデックス™の売上高も、欧州（34%増）およびアジア太平洋地域（27%増）での好調な売上増に支えられ、第3四半期22%増、9カ月累計32%増となりました。
- 2006年8月、国際アロマトーゼ阻害剤委員会の統一見解が発表され、アリミデックス™などのアロマトーゼ阻害剤は閉経後の早期ホルモン感受性乳癌患者の最も有効な治療法として、タモキシフェンよりも優れていることが確認されました。
- カソデックス™の米国での9カ月累計売上高は19%増加し、処方数の成長率は7%と推定されます。米国以外の市場でも9カ月累計5%増となりました。

- イレッサTMはアジア太平洋地域での17%の売上増を受け、第3四半期の売上高は5%増加しました。9カ月累計では10%減少しましたが、米国以外の市場では12%増加しました。
- FaslodexTMは欧州で93%、米国で12%の伸びを示し、9カ月間で38%増の1億3,800万ドルを売り上げました。

ニューロサイエンス

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2006	2005		2006	2005	
セロクエル TM	848	706	+19	2,504	2,006	+26
ゾーミック TM	99	86	+13	295	258	+16
合計	1,150	1,001	+14	3,464	2,975	+17

- 米国市場では、セロクエルTMの第3四半期の売上高は19%増加し、6億1,300万ドルに達しました。総処方数は本年現在までに、市場成長率を大きく上回る12%増を記録しています。米国でのセロクエルTMの9カ月累計売上高は26%増加しました。
- 米国以外の市場では第3四半期20%増、9カ月累計24%増を記録しました。
- 10月19日に当社は、欧州におけるセロクエルTM 1日1回徐放製剤の承認申請を発表しました。
- また10月20日付けで、セロクエルTMは双極性障害に伴う鬱の症状の治療薬として米国医薬品局（FDA）の承認を得ました。
- ゾーミックTMの米国での売上比較には、前年に引き続き2005年4月1日に米国における本製品ビジネスの全責任をアストラゼネカが回復したことが反映されています。米国市場でのゾーミックTMの売上高は当期52%増、9カ月累計55%増を記録しました。
- 米国以外の市場では当期に5%減少し、9カ月で3%の減少となりました。

地域別売上

	第3四半期		CER (%)	9ヶ月累計		CER (%)
	2006	2005		2006	2005	
米国	3,100	2,621	+18	9,059	7,864	+15
欧州	2,118	2,012	+1	6,545	6,374	+7
日本	370	367	+7	1,061	1,103	+4
その他	928	789	+15	2,656	2,323	+12

- 米国での第3四半期の売上は、主力製品（NexiumTM、セロクエルTM、クレストールTMおよびアリミデックスTM）の堅調な売上に支えられました。主力製品の総売上高は23%の増加を記録しました。
- 欧州での第3四半期の業績は、クレストールTM（57%増）、セロクエルTM（25%増）、アリミデックスTM（17%増）およびSymbicort（11%増）の成長が他の四半期よりも顕著でした。
- 日本での第3四半期売上高は、オンコロジー製品の成長およびクレストールTMの初期の在庫販売により7%増加しました。

営業レビュー

別段の記載がない限り、伸び率は恒常為替レート（CER）

第3四半期

報告ベースで売上高は13%、営業利益は24%増加しました。恒常為替レートベースでは売上高は11%、営業利益は24%増加しました。

当期の為替変動により売上高は2%増加しましたが、営業利益に変化はありませんでした。前年同期に比べると、ドルはユーロに対して弱く（4%）、そのために売上高が増加し、スウェーデン کرونا（6%）および英ポンド（5%）にも弱く、そのために費用が増加しました。この為替変動の結果、当期の1株当たり利益に対する為替の影響はごくわずかにとどまりました。

米国での売上高の実質成長率は、マネージドケア市場の収益および在庫変動などの因子を調整しても、報告ベースの成長率の18%とほぼ一致します。米国以外の売上高は5%増加しました。

営業利益率は報告ベースで29.3%から32.3%に3.0ポイント増加しました。為替および他の収入の影響を除くと、当期の実質利益率は2.3ポイントの改善でした。

売上総利益率は売上高の79.5%に1.0ポイント上昇しました。売上高の4.8%というメルク社への支払い率は前年同期と変わりありませんでしたが、為替の影響で売上総利益率は前年同期より0.1ポイント減少し、権利使用料の支払いにより0.3ポイント減少しました。これらをすべて差し引くと、有利な製品構成および業務の効率化により、当期の実質利益率は1.4ポイントの改善となりました。

第3四半期の研究開発費は、社内ポートフォリオの進行に関連する業務量の増加および表出化戦略の影響により、前年同期比19%増の9億6,200万ドルを計上しました。これにはCambridge Antibody Technology Group社に関連する投資額3,100万ドルが含まれ、前年同期比4%の増加率に相当します。研究開発費の少なかった2005年第3四半期に比べて、今期は研究開発投資により営業利益率が1.0ポイント低下しました。

当期の販売・一般管理費は、新興市場の投資額の増加および事業全体での主力製品への継続的投資により、4%増の21億8,000万ドルを計上しました。販売・一般管理費の増加率を売上成長率よりも低く抑えられたことから、営業利益率は2.2ポイント上昇しました。

他の収入、主に権利使用料の増加により、営業利益率は1.2ポイント増加しました。

金融商品に関する公正価格調整として、第3四半期に1,700万ドルを計上しました。1,600万ドルは売上原価の増加、100万ドルは支払い利息の増加として計上しました。

9カ月累計

報告ベースで売上高は9%、営業利益は28%増加しました。恒常為替レートベースでは売上高は11%、営業利益は29%増加しました。

為替変動により売上高が2%、営業利益が1%減少し、累積的にEPSは2セント減少しました。残る2カ月間も現在の為替が維持されるとすると、第4四半期のEPSは2セント程度減少すると予想されます。

米国での売上高の実質成長率は、報告ベースの9カ月累計成長率の15%にほぼ等しいものです。米国以外の市場の売上高は7%増加しました。

営業利益率は報告ベースで27.5%から32.2%に4.7ポイント上昇しました。為替の影響および他の収入を差し引くと、実質利益率は9カ月間で3.1ポイント改善しました。

売上総利益率は1.9ポイント増の79.4%でした。総利益率はメルク社への支払い（売上げの4.7%）の影響を受けませんでしたが、為替変動により0.1ポイント、権利使用料の支払いにより0.2ポイント減少しました。前年に発生したMedpointe社とのゾーミックTM米国販売契約の早期打ち切りに関する費用を差し引くと、実質総利益率は2.0ポイント改善しました。

研究開発費は14%（Cambridge Antibody Technology Groupへの投資額を除くと13%）増加し、27億7,800万ドルを計上。これにより、営業利益率は0.4ポイント減少しました。販売・一般管理費は前年比6%増の65億8,500万ドルに達し、これにより営業利益率は1.5ポイント減少しました。

権利使用料が増加したほか、米国麻酔・鎮痛薬製品の Abraxis BioScience 社への売却益として第 2 四半期に 1 億 900 万ドルを計上したことから、営業外収益が増加し、営業利益率が 1.4 ポイント上昇しました。

金融商品に関する公正価格調整として9カ月間で2,100万ドルを計上しました。

Toprol-XL™

この 9 カ月間に Toprol-XL™ の売上高は 11 億 500 万ドル、EPS は 40 セントを記録しました。ジェネリック企業が競合製品を発売するのかどうか、発売するのであればいつ、どの力価の製品を販売するのかは明らかではありませんが、当社は将来の業績を判断するのに、現在の業績から Toprol-XL™ を除外するのが最善と考えています。このため、今期および前期の業績から Toprol-XL™ を除外すると、売上高の伸び率は 9 カ月で 11% (第 3 四半期 11%) であり、EPS の増加率は 39% (第 3 四半期 34%) となります。

現在の見通しにもとづき、「リスクのある」状態で後発競合製品が発売されないと仮定すると、本年の残る 2 カ月間に Toprol-XL™ が寄与する EPS の額は 10 セントと予想されます。

利息・配当収入

正味利息・配当収入は9カ月累計2億2,700万ドル(2005年1億1,200万ドル)、第3四半期8,100万ドル(2005年4,800万ドル)でした。前年同期からの増加は、主に平均投資残高と利回りの上昇によります。報告金額には IAS (国際会計基準) 19号「従業員給付」に規定の従業員給付基金の資産と負債による利息収入を9カ月累計で 3,500 万ドル (2005 年 1,300 万ドル)、第 3 四半期で 1,100 万ドル (2005 年 200 万ドル) 含みます。

税金

本年9カ月間の実効税率は前年同期の29.8%(第3四半期29.4%)に対して28.3%(第3四半期27.2%)でした。2005年の年間税率の低下は、主に株式報酬および各地域の利益の混在にもとづくタックスメリットが原因です。株式報酬に関連するタックスメリットによって、9カ月間に税率が0.7ポイント低下し、これは株価の上昇により認められた高い税額控除が、すべての未処理のオプションに適用されたことによります。2005年の税率には、Losec™の罰金に関する税支払い免除が適用されなかったという単発的な悪影響も含まれています。2006年の年間税率は28~29%と予想されます。

キャッシュフロー

本年 9 カ月間のフリーキャッシュフロー*は 2005 年同期の 42 億 9,400 万ドルに対して 47 億 9,300 万ドルでした。

株式買戻し額20億2,400万ドルおよび配当金22億2,000万ドルからなる株主への利益還元額42億4,400万ドルのほか、買収による正味キャッシュフロー11億7,000万ドル(取得にかかるキャッシュの正味額)により、正味資金は全体で4億3,500万ドルの減少となりました。

本年 9 カ月間の営業活動によるキャッシュフローは、前年同期から 7 億 1,900 万ドル増加して 55 億 3,300 万ドルでした。税引き前利益の 14 億 6,200 万ドルの増加は、運転資金の需要の増加 2 億 3,600 万ドルおよび支払い税額の増加 4 億 2,200 万ドルによって相殺されました。

本年 9 カ月間の投資業務による正味現金支出は、前年同期の 6 億 2,100 万ドルに対して 5 億 5,700 万ドルでした。投資業務による正味現金収入は、長期資金と流動資金(現金)の振り替えに関するグループ資金管理方針の影響を受けました。前年同期の 1 億 100 万ドルのアウトフローに対して、本年 9 カ月間は 13 億 5,300 万ドルのインフローでした。この 9 カ月間に Cambridge Antibody Technology Group 社および KuDOS Pharmaceuticals 社の買収費用として 11 億 7,000 万ドルを拠出しました。主に新たな業務提携による無形資産への支出が 3 億 5,200 万ドル発生しました。

* - 株式発行および株主への利益還元；短期投資額、定期預金および短期借入金の変動；ならびに買収前のキャッシュフロー

投資

当社は7月に、クレストールTMとAbbott社製次世代薬TriCor[®]（ABT-335）を使用した合剤を共同で開発し販売するため、Abbott社と業務提携を締結したことを発表しました。

当社は8月、Cambridge Antibody Technology Groups社（CAT）の買収を完了しました。当社は無形資産および営業権約13億ドル（開発中の代表的製品、発売後製品のライセンス収入ならびにCambridge Antibody Technology Groups社がモノクロナル抗体とそのライブラリの開発に利用した専門技術）、繰延税金負債3億5,500万ドルおよび他の正味資産2億9,500万ドルを含む総額約12億ドルの正味資産を連結しました。また10月25日に、CATの買収の一部として取得した一連のHumiraライセンス権をRoyalty Pharmaに7億ドルで売却、現金決済しました（2006年1月1日以降にCATが受け取った権利使用料の総額について調整）。売却に伴う損益は発生しませんでした。この売却により、無形資産および営業権の総額は約6億ドルに減少します。この結果、年間償却額は約8,000万ドルから2,000万ドルに減少し、ライセンス収入の処分の影響は相殺されます。

当社は8月に、エソメプラゾールとナプロキセンコーティング錠の定用量合剤を共同で開発販売するため、研究・商品化に関してPozen社と業務協定を締結したことを発表しました。前金の4,000万ドル（現金）を無形資産として投資しました。

9月にDynavax Technologies Corporation およびSchering AG社と商品化等に関して業務提携したことを発表しました。最初の支払い総額2,300万ドルを無形資産として資産計上しました。

株の買い戻しプログラム

第3四半期中に総額13億3,100万ドルを投じて2,140万株を買い戻し、償却しました。これにより、本年9カ月間の買い戻し株数は5,250万株、買い戻し費用は総額29億5,800万ドルになりました。また株式選択権の行使を考慮し、社員持ち株制度に関連して、この9カ月間に総額9億3,400万ドルで2,250万株を発行しました。本年1年間の株式買い戻し額（正味の新規発行株価）は約30億ドルに上る見込みです。

2006年9月30日現在の発行済み株式総数は15億5,100万株でした。

この株式買い戻しプログラムにより、将来の利息収入の推定額から9カ月間のEPSは5セント増加したことになります。

最新の研究開発

当社は10月19日に、欧州におけるセロクエルTM1日1回徐放製剤の承認申請を提出しました。また、セロクエルTMは10月20日付けで双極性障害に伴う鬱の症状の治療薬として米国医薬品局（FDA）に承認されました。

10月9日、欧州におけるSymbicortTM維持・リリーバー療法（Symbicort SMARTTM）のEU相互認証手続きを成功裡に完了したことを発表しました。

クレストールTMのMETEOR臨床試験が完了し、2007年3月開催の米国心臓病学会での発表のために試験結果を提出しました。METEOR試験の所見はASTEROID試験およびORION試験のデータと併せて、2007年上半年期に予定しているアテローム性硬化症に関する規制当局への提出書類の基本データとして使用します。

本年10月26日に発表した通り、SAINT II試験の結果から、治験薬NXY-059は卒中による不能の統計的に有意な減少という主要目的を満たさないことが明らかになりました（改変Rankin Scale（mRS）による、 $p=0.33$ 、オッズ比0.94）。当社は今後、急性虚血性脳卒中を適応とするNXY-059の開発を継続する予定はありません。

難治性扁平上皮頭頸部癌患者を対象にしたイレッサTM（ゲフィチニブ）の第III相試験（IMEX試験）は、メトトレキサート化学療法よりも全生存率が高いことを証明する主目的を達成できませんでした。この試験では、イ

レッサ™の抗腫瘍活性を示すエビデンスがある程度認められましたが、当社は本試験のデータにもとづき、販売承認申請を規制当局に提出しないことを決定しました。IMEX試験のデータはいずれ適切な専門の医学会で発表する予定です。

AZD6140の第III相臨床試験PLATOが患者の登録を開始しました。PLATOはAZD6140とクロピドグレルの転帰を直接比較する試験です。本試験は世界40カ国以上の1,000カ所の治験施設で実施し、急性冠動脈症候群（ACS）患者1万8,000例を組み入れる予定です。PLATOは広範囲の患者群を試験に組み入れることによって、「実世界」を反映するようにデザインされています。

カレンダー

2007年2月1日	2006年第4四半期・通年業績発表
2007年4月26日	2007年第1四半期業績発表
2007年4月26日	2007年年次総会開催
2007年7月26日	2007年第2四半期・上半期業績発表
2007年11月1日	2007年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者
デビッド・ブレナン